

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：13902

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2019

課題番号：26770291

研究課題名(和文)グローバル状況下のムスリム移民とネットワーク：アフマディーヤの事例研究

研究課題名(英文) Muslim Migration and their Networks under the Globalization: A Case Study of Ahmadi

研究代表者

嶺崎 寛子 (MINESAKI, Hiroko)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：50632775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本課題研究期間を通じて、本国パキスタン、本部のあるイギリス、居住者の多いカナダなどを調査し、教団のネットワークの実際と人の国際移動の流れ等について、史資料収集およびインタビュー調査等を通じて、立体的かつ動的な実像をつかむことができた。ディアスポラ状況における複層的なアイデンティティとジェンダーの問題は、グローバル化の影響を受けた極めて現代的な現象であるという観点から、本研究では背景と実態の把握を行った。その際にはディアスポラ移民女性のライフコース選択に焦点を当て、トランスナショナルリティやグローバル化、ディアスポラ社会における宗教とジェンダーについて、研究を順調に積み上げることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は3点ある。1点は国や地域を限定することなく、ディアスポラの移民とその移動を広域に見ることを可能にした点。2点目は、結婚や進学、言語取得のための移住など、労働のための国際移動ではない、今まであまり分析されてこなかった女性の移動を分析することで、ジェンダー研究における移動研究を一層進展させたこと。3点目は、異端宣告をされた少数派を研究することで、イスラーム研究の幅と領域を広げたことである。

研究成果の概要(英文)：Throughout this project, I have been surveyed their origin Pakistan and India, the United Kingdom where their headquarters is located, Canada that one of the main host countries of Ahmadi migrants, etc. Then, I was able to capture their Migration's reality and how gender works on it.

I have tried to grasp the background and actual situation from the viewpoint that the problem of multi-layered identity and gender in the diaspora situation is an extremely modern phenomenon affected by globalization. Focusing on the life course selection of diaspora immigrant women, I was able to research transnationality, globalization, religion, and gender in diaspora society.

研究分野：文化人類学、ジェンダー学、中東地域研究、宗教研究

キーワード：アフマディーヤ ディアスポラ社会 ジェンダー マイノリティ イスラーム 国際移動

1. 研究開始当初の背景

近年グローバルな移民が増加し、欧米社会においてはイスラーム圏からの移民の増加により、イスラームおよびムスリムのプレゼンスが増している。日本でもムスリム移民数は増加しつつある。移民やディアスポラはきわめて現代的な問題であるが、カルチュラルスタディーズや文化人類学が注目し論じてきたにもかかわらず、宗教やジェンダーという問題系については未だ十分な量の研究が蓄積されていない。移民という現象がジェンダー化されていることに関する先行研究は多くあるが(伊藤るり、足立眞理子編著、2008『国際移動と連鎖するジェンダー』)、従来の移民研究は労働にかかる移動を中心に扱い、労働以外の要因による、女性の出身国からホスト社会への、あるいはホスト国間の移住は十分に論じられてこなかった。日本に関しては、移民と国際結婚し改宗した日本人女性の民族誌はあるが(工藤正子 2008『越境の人類学』)、在日移民ムスリム女性の研究は未だ殆どない。世界のムスリム移民女性については、移民当事者たちの自伝的エッセイはいくつか出版されているが、それらは名誉殺人や結婚強制等を扱った物が多い。日本を含む欧米社会においてはそれは、特定のコミュニティ自体を野蛮だとか暴力的だとして他者化し、オリエンタリズム的まなざしのなかに定置することで、差別を強化することになりかねないという危険を孕む。オリエンタリズム的まなざしと距離を置き、不変的で拘束的な文化や宗教というラベリングと無縁のところ、構築主義的なアプローチに基づいて、極めて現代的な事象として、ディアスポラやイスラーム、ジェンダーを扱う必要がある。

研究代表者はエジプトを事例に女性たちのイスラーム言説の利用のあり方の現代的変化を研究する過程で行った、イスラームと女性のリーダーシップにかかる国際的な共同研究(Bano, Masooda and Kalmbach, Hilary (eds.), 2012, *Women, Leadership and Mosques: Changes in Contemporary Islamic Authority*, Leiden, Brill.)において、欧米社会のディアスポラ・ムスリムの可能性とそのジェンダー状況にかかる研究の必要性を認識した。その後東日本大震災支援を行っていた本研究の対象教団と出会い、彼らが母国パキスタンでは異端・違法とされ、それゆえに法的権利を奪われ迫害され世界中に分散(ディアスポラ)したイスラーム系新宗教であることを知った(Antonio Gualtieri, 2004, *The Ahmadis*, McGill-Queen's University Press)。共同研究で得た知見と今までのイスラームとジェンダー研究で得た知識をもとに、越境するイスラームにおけるジェンダー研究をアフマディーヤ教団を事例に行うことで、ディアスポラ状況における宗教、ジェンダーの現状を明らかにする。それを理論化することで、この分野に新たな視角を提供したい。

2. 研究の目的

ディアスポラ状況における複層的なアイデンティティとジェンダーの問題は、グローバル化の影響を受けた極めて現代的な現象であるという観点から、背景と実態の把握を行う。その際にはディアスポラ移民女性のライフコース選択に焦点を当てる。トランスナショナリティやグローバル化、ディアスポラ社会における宗教とジェンダーに注目し、理論化する。

3. 研究の方法

ミクロな次元とマクロな次元を組み合わせる。文化人類学のフィールドワークに基づくミクロな次元での研究と、移民に関するホスト社会の法や法運用、教団の国際的ネットワーク等のマクロの次元での研究の双方を行う。

4. 研究成果

本課題研究期間を通じて、本国パキスタン、本部のあるイギリス、居住者の多いカナダなどを調査し、教団のネットワークの実際と人の国際移動の流れ等について、史資料収集およびインタビュー調査等を通じて、立体的かつ動態的な実像をつかむことができた。例えば信徒の結婚による国際移動については、特に日本から海外に嫁ぐ事例を複数調査し、詳細を論文及びコラムにまとめた(嶺崎寛子 2018「ローカルをグローバルに生きる アフマディーヤ・ムスリムの結婚と国際移動」東京都立大学・首都大学東京社会人類学会編『社会人類学年報 vol 44 2018』弘文堂:

79-109、嶺崎寛子 2020「国際移動を生きる女性たち 越境するアフマディーヤの宗教運動」(長沢栄治監修、鷹木恵子編『越境する社会運動』、明石書店：160-172)。一般読者向けのエッセイは、学術的な業績にはならないが、専門的知見を社会に届けるうえで非常に重要であり、社会的インパクトが大き(嶺崎寛子「越境する花嫁 パキスタン系移民のグローバルな結婚ネットワーク」(長沢栄治監修、森田豊子・小野仁美編『結婚と離婚』：108-111)。今後も一般市民に研究成果を届ける活動は積極的に行っていきたい

ディアスポラ状況における複層的なアイデンティティとジェンダーの問題は、グローバル化の影響を受けた極めて現代的な現象であるという観点から、本研究では背景と実態の把握を行った。その際にはディアスポラ移民女性のライフコース選択に焦点を当て、トランスナショナルティやグローバル化、ディアスポラ社会における宗教とジェンダーについて、研究を順調に積み上げることができた。なお成果を世に問う際には、可能な限りインフォーマントの方に原稿確認をしていただき、公開する情報の中身についても承諾を得たことを申し添えておく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 嶺崎寛子	4. 巻 62
2. 論文標題 「(研究ノート)ムスリムとは誰か ムスリムの周縁をめぐる試論」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『お茶の水史学』	6. 最初と最後の頁 245-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中雅一・嶺崎寛子	4. 巻 82 - 3
2. 論文標題 特集 ムスリム社会における名誉に基づく暴力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 311-327.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 嶺崎寛子	4. 巻 なし
2. 論文標題 グローバル化を体現する宗教共同体 イスラーム、アフマディーヤ教団	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『現代宗教2017』	6. 最初と最後の頁 127-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 2188-4471	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 嶺崎寛子	4. 巻 187
2. 論文標題 地元とも世界ともつながる場所 愛知県津島市、「異端」のモスク	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『Migrants Network』	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 嶺崎寛子
2. 発表標題 「イスラームにおける近代のインパクト：アフマディーヤ教団を事例に」
3. 学会等名 第二回南山宗教研究会（南山大学南山宗教文化研究所）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嶺崎寛子
2. 発表標題 「中東におけるジェンダー化された暴力と政治 / 国家」
3. 学会等名 基盤研究A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」内公募研究会「イスラーム圏における「ジェンダー化された暴力 / 苦悩」」第一回研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 東京都立大学・首都大学東京社会人類学会（編集）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 168
3. 書名 社会人類学年報 Vol.44(2018)	

1. 著者名 長沢栄治監修・鷹木恵子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 260
3. 書名 越境する社会運動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームからグローバルへとひろがる人類学
<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/html/060.html>
Anthropology That Extends Globally from the Home
<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/asj/html/ess031.html>
「ムスリム女性」のステレオタイプに文化人類学によって抗うということ
https://www.wcaanet.org/publications/propios_terminos/minesaki.shtml
Resist Muslim stereotypes in Japan
https://www.wcaanet.org/publications/propios_terminos/minesaki.shtml
ファトワー：イスラームと暮らす
<https://www.circam.jp/columns/detail/id=2863>
[エッセイ] 「ムスリム女性」のステレオタイプに文化人類学によって抗うということ
https://www.wcaanet.org/publications/propios_terminos/minesaki.shtml
Resist Muslim stereotypes in Japan
https://www.wcaanet.org/publications/propios_terminos/minesaki.shtml
高校生のための研究案内
http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/shakai_minesakihi roko_140627.pdf

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----